

令和7年12月18日(木)

小規模多機能居宅介護 宍道の里

事業所名称…社会福祉法人 縁むすび福祉会 小規模多機能型居宅介護 宍道の里

サービス種類…地域密着型小規模多機能型居宅介護

会議開催日… 令和7年12月18日(木)

開催場所…小規模多機能型居宅介護 宍道の里

出席者

事業所	2	名	事業所	0	名
利用者家族	1	名	地域代表者	1	名
松江市職員	1	名	地域包括支援センター	0	名
知見を有する者	0	名	その他(理事)	0	名

議事

利用状況

登録者数	11 名	( 男性	4 名	女性	7 名	)				
要支援1	0 名	要介護1	1 名	要介護3	2 名	要介護5	0 名			
要支援2	3 名	要介護2	3 名	要介護4	2 名	申請中	0 名			
平均要介護度	2.182	平均年齢	79.5	歳						

曜日別利用者数

	月	火	水	木	金	土	日
通い	2	5	1	4	5	2	1
訪問	4	2	3	5	2	4	4
泊り	4	4	4	3	3	3	2

活動状況報告

- ・カレンダー作成

・季節のぬり絵
- ・ドライブ

・脳トレ(ボードゲーム)
- ・干し柿作り

(1)感染症対策として、マスクの装着を行っています。

11月末にコロナ感染が宍道楽苑であり、その際は楽苑との行き来は中止としていました。

11/12(水)に紅葉を見にドライブに出かけたり、頂いた柿で干し柿づくりをして、季節を感じながら活動を行っています。

事故・ヒヤリ報告

事故報告書： テーブルの下に白い錠剤が落ちているのを発見する。確認するとK様の服用している薬で

あった。おそらく夕食後の薬と思われるが、二重服用になるといけないので服用しなかった。

対策： 服薬確認をしているが、きちんと口に入るところまで確認をする。

事故報告書： 11月に入り、帰宅願望がとて強くなった。11月に3回「歩いて帰る」と言って職員の  
静止を聞かず、外に出ていかれる。無理にお止めすることはせず、一緒についていく。  
坂の下まで歩かれるが、降りると疲れて動けなくなる。  
3回のうち1回は前からつんのめり顔面から転倒される。  
左の頬部、左膝、右拇指を打撲、すり傷あり手当を行う。

対策： ご本人のお話を傾聴し、帰宅願望から気分をそらせるよう活動を考えていく。

事故報告書： 居室から音がなり行ってみると、居室内のトイレ近くの床に転倒し、横になられていた。  
センサーマットを離れた位置に設置していたため、センサ音が遅れたと思われる。  
ご自身の力が入らない状態だったが、ご自身でトイレに行かれようとしたため  
転倒につながったと思われる。  
痣や傷等は確認できなかった。

対策： センサーの位置を考え、音がすぐなるような位置に設置し、音が鳴ったらすぐ駆け付けれる  
ようにする。  
お薬もいろいろ変わってきているので、職員で共有していき、対応できるようにしていく。

ヒヤリハット： お風呂掃除をし、ホールに戻るとM様の姿が見えなかった。ほかの職員に尋ねたが分からず。  
少ししたら、宋道楽苑の職員と一緒に戻ってこられた。

対策： 職員同士、誰かが見守りをしているだろうと思っていた。  
その場を離れる時は、声を掛け合っていたら防げていたと思う。  
職員同士の報連相を徹底する。

## その他

松江市職員 「帰宅願望が強くなったご利用様は最近はいられた方ですか？  
なぜそうなられたのですか？」

施設長 「その利用様は前からご入居の方です。新しく入られた利用様で帰宅願望がある方がおられ、  
その方が入られたことで自分も帰りたいという気持ちが出てきたのだと思います。」

特になし